校長通信『道標（みちしるべ）』　第12号

令和３年３月１日

福岡県立若松商業高等学校　　校長　谷川　陽一

餞（はなむけ）の言葉　―　第６１回卒業生の皆さんへ　－

第６１回卒業生の皆さん。卒業おめでとうございます。

本年度は創立６０周年に当たり各記念事業を行いました。卒業生の皆さんは学年のリーダーとして学校全体をまとめ、各事業とも大成功へと導きました。とりわけ、記念式典では全学年を代表して参列した皆さんの素晴らしい態度は、来賓の方々をはじめ、他校の校長先生方からも、最高のお褒めの言葉をいただきました。「記録にも記憶にも残る」素晴らしい記念式典でした。感動をありがとうございました。

さて、本校を巣立つ皆さんに向け、餞の言葉を贈ります。

「行不由徑」（こうふゆけい：論語）　― 行くに小道によらず ―　卒業アルバムにも揮毫（きごう）しました。「安易な近道を選ばない。堂々と大道（だいどう）を歩め。」という意味です。これは、仕事でも人生でも困難にぶつかれば、そこを避けて通りたいと思うのが常です。しかし、あえて正攻法で挑むことが大切です。満足する結果は出ないかもしれません。うまくいかないこともあるでしょう。しかし、近道【基礎を怠ること】や奇（き）を衒（てら）う【人を驚かす】方法であれば、いずれ行き止まりにぶつかります。なぜなら、卑怯（ひきょう）な方法は周りの人から決してリスペクト（尊敬）されないからです。正攻法で挑めば、失敗しても諦めがつきます。そして、人として大切な誇りが培われ、次の機会にも正々堂々と物事に挑む潔さが生まれます。なにより周りの人はそのような姿に心を揺さぶられます。そして、多くの人たちの協力により、困難なことも乗り越えることができるようになるのです。

このことを「徳不孤」（とくふこ：論語）　― 徳は孤ならず ―　【徳のある人はけっして孤立しない。必ず協力する人が現れる。】と言います。創立六十周年記念として作成した応援歌にも、潔いこころ（行いが正しく私心がない）を育んでほしいと念（おも）いを込めました。

最後に、卒業生の皆さん、君たちの高い理想と志、それを実現させるためのたゆまぬ努力。そのすべてを母なる花房山は久遠（くおん）にあたたかく見守っています。

濤（なみ）音高き　玄海の　潮に育ちし　精鋭よ
練られた技は　潔し　標（しるべ）を築け　若商健児
―　創立六十周年記念　応援歌から　―

北九州市の事業「嘉代子桜・親子桜」の植樹式について

北九州市は太平洋戦争末期、アメリカ軍が投下した原子爆弾にまつわる「桜」の植樹を進めています。２月１２日（金）北九州市主催（市長参加）により、本校生徒会が植樹する記念式が行われました。若松区役所公式 Facebook にも掲載されています。

昭和２０年８月９日長崎市に原子爆弾が投下され、多くの方が犠牲となりました。林嘉代子さん（当時１５歳：長崎県立高等女学校４年）は、爆心地から５００メートルほど離れた長崎市立城山小学校で学徒報国（がくとほうこく）隊員として勤めており、午前 11：02 に投下された原子爆弾により多くの友人とともに亡くなりました。

戦後、母親の津恵さんは娘や一緒に亡くなった女学生の慰霊（いれい）と平和への願いを込めて同小学校に桜の苗木を植えました。その桜は「嘉代子桜」と名付けられ春には見事な桜花を咲かせます。

長崎市に投下された原子爆弾は、当初旧小倉市にあった小倉陸軍造兵廠〈こくらりくぐんぞうへいしょう:小倉北区にあった兵器工場〉を目標としていました。爆弾投下の当日、視界不良であったため、第２目標の長崎市に投下され多くの市民の尊い命が奪われたのです。

このことを顧（かんが）み、北九州市では平和への願いが込められた苗木を「嘉代子桜・親子桜」と名付け、広く北九州市内の公園や学校等に植樹を行い原爆や戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝える取組みをしており、本校も趣旨(しゅし)に賛同して植樹式を行いました。